

# 京都の水産

令和4年版



京都府水産事務所

# 京都府の海

京都府の海岸の総延長は約315kmあり、起伏に富んだリアス海岸や波の穏やかな内湾、沖合の天然魚礁など、多様な環境を有しています。

京都府の海には、対馬暖流（表層の暖かい水）と日本海固有水（深層の冷たい水）の影響を受け、四季折々、色んな魚介類が水揚げされています。

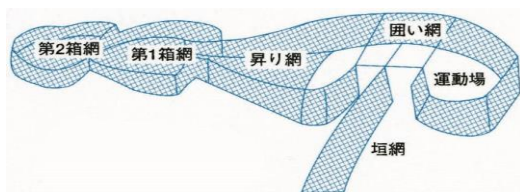


## 京都府の主な漁業 1. 沿岸漁業

### 定置網漁業

主な漁獲物

イワシ類、ブリ、サワラ、マアジ、マグロなど



沿岸の定まった場所に網を設置し、網に入りこんだ魚をとる、待ちうけ型の漁法です。

夜明け前に出港し、数隻の船で協力しながら箱網を引きあげ、魚を船にとりこみます。

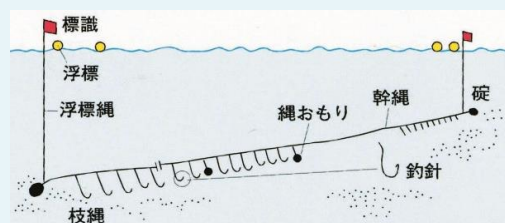
### 釣り・はえ縄漁業

主な漁獲物

アカアマダイ(ぐじ) マダイ、サワラなど

釣糸と釣針を使い、釣針にエビなどのエサや疑似餌を仕掛け、魚をとる漁法です。

図のはえ縄漁業は、幹となる長い糸(幹縄)に、釣針の付いた多くの短い糸(枝縄)が付けられています。



### 採介藻漁業

主な漁獲物

アワビ、サザエ、ナマコ、ワカメ、イワガキなど

沿岸の浅い漁場で行います。

船上から箱メガネで海底をのぞき、長い柄の先に付けた鉤でとる「水視漁法」と「潜水漁法」が行われています。



▲水視漁法



▼種苗放流

資源を増やすため、アワビやサザエを放流しています

### 養殖業

魚や貝、海藻などを、出荷サイズになるまで育てます。



「丹後とり貝」は舞鶴湾、栗田湾、宮津湾、久美浜湾で育てられます。

▼養殖トリガイの成長(約1年)



▼アカモクの収穫

アカモク養殖は宮津市と舞鶴市で行われています。

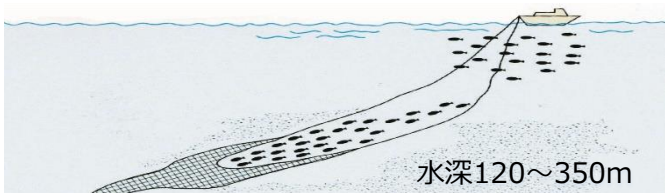


▼クロマグロの水揚げ

伊根湾ではマグロやブリなどの魚類養殖が盛んです。

## 京都府の主な漁業 2. 沖合漁業

### 底びき網漁業



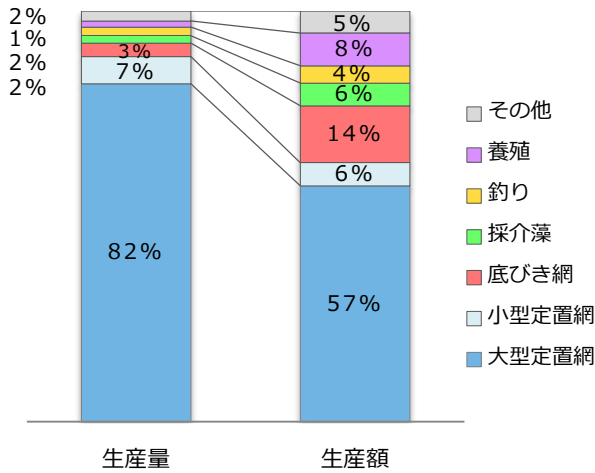
海底までおろした袋状の網を船で引き、魚やカニをとる漁法です。現在、京都府では11隻が操業しています(舞鶴5隻、間人5隻、網野1隻)。

資源保護のために6~8月は禁漁期間となっています。

主な漁獲物 ズワイガニ、アカガレイ、ハタハタ、ニギスなど

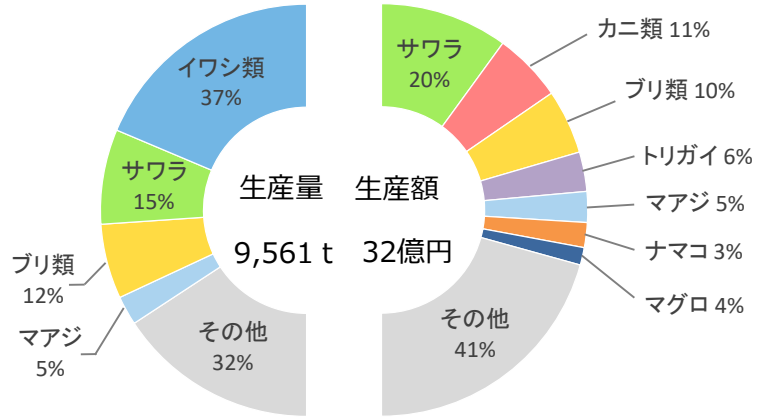
# 京都府の漁業生産

京都府の漁業の特徴は、生産量、生産額ともに大型定置網の比率が高いことです。全国でも大型定置網の生産量が80%以上を占める都道府県は京都府だけです。



漁業種類別生産高 (令和2年・水産事務所調べ)

近年の漁獲の傾向として、サワラの漁獲量（生産量）の増加があります。京都府では平成11年から生産量が急増し、これまでに4回、生産量で日本一になりました。現在でも生産量、生産額ともに上位を占めており、サワラは京都府の漁業において非常に重要な魚種となっています。



魚種別生産高 (令和2年・水産事務所調べ)

## 京都産の魚が食卓に届くまで

### (1) 海



漁業者は夜明け前に港を出て、朝日とともに操業します（定置網）

水揚げ

### (2) 漁港



鮮度が落ちないように、帰港直後から素早く選別します



丹後では、「浜売り」という魚の直売の風習があります

### 出荷

### (5) 食卓へ



▲ぶりしゃぶ



▲サワラ炙り丼

### (4) 加工場、店頭



### (3) 産地卸売市場 (舞鶴・宮津・間人・網野)



卸売市場では、仲買人と呼ばれる人達が、出荷された魚を評価して値をつけ、最も高値をつけた人が買い取ります。

これを「セリ」と呼びます。

▲間人地方卸売市場 (高度衛生管理型の最新施設)

## 水産業を支えるしくみ ～漁業協同組合～



漁業の生産性を上げ、漁業者の生活を向上させるための組織です。漁業者がとってきた水産物の販売、漁業者が使う氷や漁網などの漁業資材の提供、漁業権の管理（漁業者が漁場を利用するときのルールづくりやトラブル防止）等を行い、漁業者を支えています。京都府では、漁協合併が段階的に進められ、現在は1漁協体制となっています。京都府漁業協同組合（JF京都）は、舞鶴市に本所を置き、沿海に9つの支所があります。

# 京都府でとれる主な魚介類

春



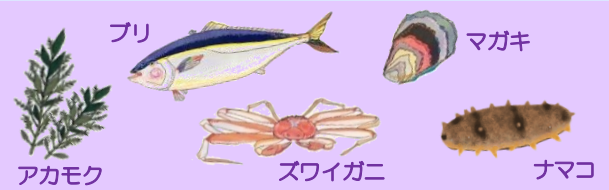
夏



秋



冬



## ブランド化の推進

…高品質な水産物をつくり、漁業収入を増やす

丹後とり貝



京都府沿岸で育成されたトリガイのうち、形がきれいで100g以上のもの。他にはない大きさにくわえ、独特の甘みと食感が魅力。

丹後ぐじ



京料理に欠かせない上品な白身魚のアカアマダイ。美しい見た目と鮮度を保つため、厳格な取り扱い・選別をおこなっています。

京都府の優れた水産物を広くPRするため、漁業者を中心に、漁協、加工・流通関係者が一体となって、府内産水産物のブランド化が図られています。

現在「丹後とり貝」と「丹後ぐじ」が京のブランド産品に認証されています。

京マークは登録商標です。

京都の農林水産物の中でも特に優れた品質のものに与えられます。



京鯖



定置網でとれた1.5kg以上のサワラ。3kg以上は「特選 京鯖」として扱われます。傷をつけないように丁寧に扱い、品質と鮮度を保ちます。旬の刺身は脂がとろけるようで絶品。

丹後の海育成岩がき



殻付きで300g以上の育成イワガキ。天然のものより育つ環境が良いので、殻の中には身がぎっしり詰まっています。

活メ京のあかがれい



活かしたまま港に持ち帰り活メすることで、これまで難しかった“刺身で食べられる高鮮度”を実現しました。



ブランド化したものに限らず、より高品質で安全・安心な魚介類を供給するために、漁獲物の鮮度保持や厳格な選別などの取組が行われています。

## 自然災害への備えと対策 ～漁港整備～



整備によって安全に利用できるようになった舞鶴漁港

漁港は、漁船の停泊を行う場所で、安全で新鮮な漁獲物を供給する漁業活動の基盤となっている施設です。

京都府では、古くなった漁港施設を直したり、変化する気候に対応した施設の新設・改修を行い、災害に強い漁港づくりを進めています。現在、耐震・耐津波化も検討しています。

# 海業の推進

京都府では、漁業や漁村の活性化を図るため「海業」を推進しています。海業とは、海や漁村を舞台にした文化、教育、スポーツ、レクリエーションなどの全てを含めた経済活動のことです。

## ◇漁業体験

▼定置網体験



漁協や水産会社などの漁業者団体が、商工観光業者などと連携しながら漁業体験に取り組んでいます。

## ◇漁村景観や水産物の利用

近年、漁村の景観そのものが観光資源として注目されており、漁港から見える風景を楽しみながらの食事や、漁船に乗って海辺をめぐる取組などが活発におこなわれています。



▲漁船で伊根湾をめぐる海上タクシー（伊根町）



▲漁港で景色をながめながら食べる「漁港めし」（伊根町）



◀かき小屋（舞鶴市）



◀シーカヤック体験（京丹後市）

## 京都府の河川での漁業

京都府内の河川でも、昔から、アユやアマゴなどを釣ったり食べたりして楽しむなど、生活に密着した営みとして漁業が行われています。

京料理に不可欠な食材としてこれらの魚が活用されたり、鵜飼いによるアユ漁が行われるなど、京都の長い歴史の中で、文化とも密接に関連し、京都を訪れる観光客にとっても大きな魅力となっています。



## ◇川の漁業と漁協



▶稚魚放流

川は海と比べて魚の数が少ないため、とり続けると魚がいなくなるおそれが強いことに加え、ダムなどが設けられている川では、海からアユなどがそ上できないため、内水面の漁業協同組合が稚魚を放流しています。

京都府ではほとんどの川に漁協があり、放流のほか、水辺に降りる道を管理したり、カワウやブラックバスなどの外来魚に食べられないよう魚を守るなど、川で漁業ができる環境を整える上で大きな役割を果たしています。

## ◇天然の魚を増やす取り組み

京都府では、漁協と協力し、稚魚放流の費用をなるべく節約しながらよく釣れる環境づくりをすすめるため、海からそ上する天然のアユや、川で産まれる魚を増やす取り組みを進めています。

漁協の皆さんが中心になって、魚がそ上しやすい魚道を作ったり、そ上できない魚をくみ上げて堰の上流に放流したり、魚の産卵場所を整えたりする取り組みが行われています。



◀魚道の設置



オイカワの産卵場所づくり▶

## ◇遊漁のきまり



漁協組合員以外の方が、漁協（漁業権）がある川で魚をとる（遊漁をする）ときは、遊漁料として漁場環境維持にかかる費用などの一部を負担することになっています。魚が減りすぎないように、とる時期や大きさが魚の種類によって決められているなど、いろいろなルールがあります。また、コイが感染するコイヘルペスウイルス病が広がることを防ぐため、とったコイを他の川や池に放流したり、捨てたりしないでください。

# 『海の民学舎』 ～担い手育成の推進～

京都府では、将来の漁業や漁村を支える人材を育成するため、漁業団体や市町と共同して、平成27年度から京都府漁業者育成校「海の民学舎」を運営しています。新しく漁業就業を希望する方を対象に、漁業の知識や技術の習得に加え、各漁村の特徴等を学び、魅力ある京都の海で一人前の漁師になることを目指す講座を実施しています。



海の民学舎HPはこちら▶

学舎7期生



## 1年目

漁業や水産研究のエキスパートによる講義・実習により漁業の基礎的な知識と技術を習得します。

研修中は、国の助成事業が受けられる場合があります。詳細は、ご相談ください。 漁業研修(定置網)▶



## 2年目

漁村に定住しながら、現地研修先で漁業の実地研修を継続し、漁業技術の向上に努めます。

研修中は、研修先の漁業経営体から給与が支払われます。 漁業実地研修(カキ養殖作業)▶



## 修了生の様子

府内各地の浜で漁業者として活躍されています。



◀定置網漁業への就業



▶個人漁業(ひき縄漁業)

## これからの漁業と漁村

京都府の漁業・漁村では、水産資源の減少による漁獲量の低迷、漁業者の高齢化と担い手不足などに対応するため、次のような取組みが積極的に進められています。

### ●担い手と経営体の育成

- ・「海の民学舎」での人材育成
- ・若手漁業者向けの、経営力や漁業技術を磨く研修の実施



漁業者を対象に、経営に必要な簿記などの能力を習得する講座を開催しています。

### ●持続的・計画的な生産

- ・資源管理の推進(とりすぎない漁業)、先端技術の導入
- ・漁場を有効活用し、養殖生産を拡大



資源管理の結果、宮津湾は大きなナマコがたくさんすむ豊かな海になりました。

### ●漁獲物の付加価値向上


- ・漁獲物の高品質化(活め、血抜きなど)
- ・漁村での他産業との連携や新ビジネス創出



ひき縄で漁獲されたサワラに活めと血抜き処理を行い、高品質化を図っています。

持続的で収益性の高い漁業へ！

このパンフレットについてのお問い合わせ先

 京都府水産事務所 海のにぎわい企画課

〒626-0052 宮津市字小田宿野1029-3

☎0772-25-3031

(令和4年3月)